

学習指導要領に示された本単元に関わる目標及び内容等

1 学年の目標（第1学年及び第2学年）

【知識及び技能】

- （1）日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- （2）順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

- （3）言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

【知識及び技能】

- （1）言葉の特徴や使い方に関する事項

イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。

- ㉠ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

【思考力、判断力、表現力等】

C 読むこと

イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。

- ㉡ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

オ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

*本単元に関わる指導事項を取り上げ、その中でも特に関わりが深いものに○を付けています。

第2学年西組 国語科学習指導案

学習指導者 片岡 亜貴子

1 単元「想像を広げて、物語の世界を声で届けよう ～『ニャーゴ』～」について

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

物語の世界を音読で伝えるために、言葉による見方・考え方を働かせながら、叙述を基に、登場人物の行動について具体的に想像する。そしてそれらについて話し合って自分の考えをより具体的に示したことを音読で表現し、さらに自分の選んだ物語についても登場人物の行動について想像を広げて物語の世界を音読で伝えようとする。

本単元では、幼稚園児や1年生におすすめの物語をグループで選び、読むところを分担して読み聞かせをするという言語活動を設定する。物語の世界を音読で表現するために、子供たちは「ニャーゴ」等の言葉とその意味を吟味し、叙述を基に登場人物のしたこと、表情、口調、様子やその理由を具体的に想像する。そして叙述と想像したことについて友達と話し合う中で、例えば「ニャーゴ」という言葉について、「『さけびました』と書いてあるから、僕は、子ねずみたちは元気いっぱいの声で言ったと思うよ。その前に猫が『ニャーゴ』と叫んでいるから、それに負けないくらい大きな声で言ったんじゃないかな」「なるほど。子ねずみたちは『ニャーゴ』はさよならの挨拶だと思っているから、『たまおじさん、また会おうね』という気持ちだったのかもしれないね」「友達に言うように、きつとにこにこの笑顔で言ったと思うよ」等と、より具体的に想像していく。そして物語の世界に浸って音読したり友達や自分の音読を聞いたりすることで、物語の世界を豊かに表現する楽しさを感じるだろう。こうしてさらに自分の選んだ物語でも、登場人物の行動を具体的に想像して音読で表現したいという思いを大きくしていくのである。

2 単元計画（総時数 17時間）

本単元の導入では、自分たちの音読と音読カップで入賞した低学年の子供の音読を聞き比べる時間を設け、「文章を詳しく想像して、登場人物の様子が伝わる読み聞かせをしたい」という目的意識を明確にし、共通教材を読む。そして単元の後半で、単元の始めに録音しておいた自分たちの音読と再び聞き比べて、登場人物の行動が伝わる音読ができるようになってきたことを実感できるようにする。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
一	①② 青組さんや1年生に読み聞かせをする物語を決めよう 青組さんや1年生ともっと仲良くなるために読み聞かせをするという言語活動を共有した後、グループを決めて、読み聞かせをしたい本を選ぶ。
	③ 青組さんや1年生に読み聞かせをする計画を立てよう 2学期教材『名前を見てちょうだい』で、自分たちの音読と音読カップ入賞者の音読とをCDで聞き比べて、登場人物の行動が伝わる音読をするための課題を見付け、学習計画を立てる。
二	④～⑩ 登場人物の様子が伝わる読み聞かせをするために、『ニャーゴ』を詳しく想像して読もう (本時9/17) 共通教材『ニャーゴ』で登場人物の行動について具体的に想像したことを話し合う中で、登場人物の行動や会話文に着目して読むこと等の既習事項を振り返ったり、「目、耳等の様々な感覚を使って考える」「言葉を置き換えて比較する」等の想像を広げるためのこつを確認したりする。そして、人物の行動について豊かに想像したことを基に、音読の練習をする。
三	⑪⑫ 青組さんや1年生に読み聞かせをする物語を、詳しく想像して読もう 共通教材での学びを生かして、自分たちが選んだ物語の登場人物の行動について具体的に想像する。
	⑬～⑮ 役割分担をして、読み聞かせの練習をしよう グループごとに役割分担をし、想像したことを基に音読の練習をする。最初の音読と今の音読とを聞き比べて、登場人物の行動が伝わる音読になってきたことを実感できるようにする。
	⑯⑰ 青組さんや1年生に、読み聞かせをしよう グループごとに分かれて、青組さんや1年生に読み聞かせをする。

3 本時について

目標	登場人物の行動について想像したことを話し合う活動を通して、登場人物の行動をより具体的に捉え、『ニャーゴ』の物語の世界が伝わるように音読することができる。
----	--

学習活動		主な子供の意識	
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【きらきらステップボード(カード)】	きらきらステップは、場面3を詳しく想像するところまで進んだよ。 青組さんや1年生に、登場人物の様子が伝わる読み聞かせをするためには、詳しく想像することが大切だったよ。	
		登場人物の様子を伝えるために、場面四を詳しく想像して読もう	
課題解決中	2 登場人物の行動を詳しく想像する。 【にゃんチュータイム】 (1) 想像したことを話し合う。 ・グループ	登場人物について詳しく想像するには、登場人物の行動や表情、声、気持ち等を考えたらよかったよ。	私は同じところで、子ねずみたちの「明るい大きな声」が聞こえたよ。子ねずみたちは『ニャーゴ』は挨拶の言葉だと思っているから、たまおじさんに明るい大きな声で返事をしたと思うな。
		なるほど。『さけびました』と書いてあるけど、ただ大きく叫んでいるのじゃなくて、明るい声だったんだろうね。その時の子ねずみたちの顔は、きつとにこにこだったと思うよ。	私もそう思うよ。『へへへ』と言っているから、子ねずみたちは猫をちっつとも怖がっていなくて、「たまおじさん、また会おうね」という気持ちだったんだと思うよ。
	・全体	〇〇さんの考えがいいなと思ったから、みんなに紹介しよう。	もっと他の人の考えも聞いてみたいところがあるよ。
	(2) 納得したことを加筆する。	猫や子ねずみたちの様子がはっきりと見えてきたから、猫や子ねずみの気持ちになって音読できそうだよ。いいなと思ったことは、書き加えておこう。	
課題解決後	3 想像したことを基に音読する。	想像した登場人物の行動や表情、声等を考えながら、音読してみよう。 猫に笑顔で話しかける子ねずみたちの様子を思い浮かべながら音読すると、上手に読めたよ。	△△のところを明るい声で丁寧に読んでいたから、子ねずみたちの優しい気持ちが伝わってきたよ。
	4 本時を振り返る。 【きらきらステップカード】	友達と一緒に考えたから、自分が気付かなかったことまで想像して音読することができたよ。 次のステップに進めそうだよ。 A：次の時間は、場面四の後半を詳しく想像して読むよ。 B：次の時間も、もう少し場面四の前半について詳しく想像して読もう。	場面四の「～」のところについて、もう少し詳しく想像したいな。次の時間に、みんなで考えたいな。 まだ次のステップには進めないよ。

評価	登場人物の行動について想像したことを友達と話し合い、登場人物のしたことや表情、口調、様子やその理由をより具体的に捉えて、『ニャーゴ』の物語の世界が伝わるように音読している。 【方法：拡大した教材文・発言】
----	---

4 子供の実態と働きかけの詳細

子供の実態	働きかけの詳細
～課題設定以前～ 教科に関わる実態 34名中9名の子供たちは、学習課題を立てる際にこれまでの学びを振り返っていないことが分かった。	学習活動1 【きらきらステップボード・カード】（4～17時間） 単元の導入で子供たちと一緒に立てた学習計画を補助黒板（きらきらステップボード）に示しておく。それと同様のものを振り返りカード（きらきらステップカード）の表面にも印刷しておき、単元を通してそのカードに学習の達成度を記入したり、学習の見通しをもつ際の参考にしたりする。学習計画に変更があった場合は、補助黒板やそのカードに加筆修正している。本時では、「青組さんや1年生に読み聞かせをする」という単元のゴールを確認し、それに向かってどこまで進んでいるかを共通理解した後、本時の学習課題は何にするかを問いかける。
～課題解決中～ 教科に関わる実態 34名中7名の子供たちは、自分の考えと比べながら友達の考えを聞くことが得意ではないと思われる。 教科に関わる実態 34名中5名の子供たちは、グループ内で自分の考えを発表することに苦手意識をもっていることが分かった。	学習活動2 【にゃんチュータイム】（5～12時間） 学習活動3 単元を通して、叙述を基に想像した登場人物の行動を付箋に書き、グループごとにそれらの付箋を拡大した教材文に貼っていきながら、互いの考えとその理由を共有し合う時間を設ける。どの登場人物の行動なのかを判別しやすいように、共通教材では猫をピンク付箋、子ねずみを水色付箋として、想像したことを書き込んでいき、さらにそれがどの観点で考えたものなのかが分かるように、行動＝緑、表情＝黄、声（口調）＝青、気持ち＝赤の色シールを貼っておく。本時では、前時に書いておいた付箋を確認した後に、まずグループで話し合う。友達と同じ考えの場合は付箋を重ねて貼り、違う場合は重ねずに貼ることで、友達の考えと比較しながら交流できるようにする。叙述の近くに付箋を貼ることで、根拠とする叙述は同じでも違う行動を想像していたり、想像している行動は同じでも違う叙述から考えていたりすることにも気付けるようにしたい。付箋を見て、同じ考えの友達がいたら自分の考えの自信につながり、違う考えは新たな気付きとなるだろう。考えを出し合った後は、想像しにくいところや付箋やシールの数や色を比較して少なかったところについて考えたり話し合ったりして、場面の様子をより豊かに想像できるようにする。全体交流をした後、自分が納得した友達の考えを教材文に加筆する時間を取る。友達の考えは赤青で加筆することで、友達と一緒に考えると想像が豊かになっていくのを視覚的にも捉えられるようにする。 そして、付箋や板書を見返して文章から想像したことを再確認し、物語の世界をしっかりとイメージしてから音読させ、よかったところを伝え合う時間を設ける。
～課題解決後～ 教師の見取り 学級全体として、最初に立てた学習計画を見直して、修正する必要があるかどうかを考えようとする意識は低い。	学習活動4 【きらきらステップカード】（4～17時間） 課題解決後には、①場面四について詳しく想像して読むことができたか（カード表面）、②友達と一緒に考えることができたか（カード裏面）という二つの観点についての自己評価（◎○△）と、学びの成果や次にしたいこと等を記述する。できるようになったことや学び方のよさ、協働のよさを全体で共有した後、次にしたいことを取り上げながら、学習計画を見直す時間を設ける。①の振り返りを学習計画のところに記入しておくことで、自分たちの学びが単元のゴールに向かって順調に進んでいるかを確かめられるようにする。順調に進んでいればそれが自信となり、順調に進んでいなければ計画の見直しが必要となるだろう。学びの達成感や楽しさを実感すると共に、学習計画を自分たちで見直し、修正しながら学習を進めていく大切さにも気付けるようにしたい。 きらきらステップカード 青組さんや1年生に、物語のせかいを「書」でとけよう！ 学習計画 ① グループをきめる 読み聞かせしたい本をきめる ② 物語のないようをはかめる 場面わけ ③ それぞれの場面について くわしくそうして読む （○） 場めん一 （◎） 場めん二 （◎） 場めん三 （～） 場めん四 （～） 場めん五 ④ グループでえらんだ物語をくわしくそうして読む ⑤ 役わりをきめて れんしゅうする 【きらきらステップカード】表面